

城崎国際アートセンター

「平成 30 年度アーティスト・イン・レジデンス プログラム」選考結果について

平成 30 年度の公募では、応募総数が前年度の 43 件（8 カ国）から倍増し、94 件（25 カ国）の応募がありました。この中から、波及力、国際性、地域性、革新性、将来性の観点から選考を行い、16 件（8 カ国）を採択しました。

城崎国際アートセンター（KIAC）の最大の使命は、世界の文化に貢献できる優れた作品を輩出していくことにあります。来年度も、世界中から、優れた作品やプロジェクト、将来性のあるアーティストに集まっていただけることになりました。彼らに創作環境を提供することで、豊岡から世界に作品を発信していくこととなります。

一方で地域交流プログラムとして、豊岡の皆さんに、すぐれた舞台芸術に触れていただく機会をいっそう増やしていきたいと考えています。

全体の多様性、バランスにも配慮しながら、プログラムを決定しました。以下に平成 30 年度のラインナップの特徴を簡単に記します。

●特徴 1：ダンスのプロジェクト

ダンスの分野では、余越保子らによる新作のクリエイションや舞踏家・目黒大路が親子で楽しめる作品として展開する『妖怪ショー!!』の第二弾の創作に加え、青木尚哉や梅田宏明といった、すでに一定のキャリアを持ち、評価を得ている振付家が若手ダンサーの育成と自身のメソッドの発展を目的に長期的な視点で実施するリサーチ・プロジェクトを選出しました。創作に没頭することのできる KIAC の環境から経験豊富なアーティストが優れた作品を国内外に発信することを期待する同時に、コンテンポラリーダンスの分野の現状に対して、問題意識を有するプロジェクトを評価しました。

●特徴 2：演劇のプロジェクト

演劇の分野では、将来を期待される 20 代から 30 代前半の比較的若いアーティストや劇団のプロジェクトをラインナップに加えしました。近年注目を集める若手劇団・贅沢貧乏（主宰・山田由梨）は、カンパニーのスタイル・メソッドの確立を目的に滞在制作を行います。鳥公園主宰の劇作家・西尾佳織は、新作公演のための戯曲執筆に特化した滞在を、劇作家・市原佐都子は主宰するカンパニーの新作のクリエイションを行います。彼女たちに加え、2016 年に岸田國士戯曲賞を受賞したタニノクロウの庭劇団ペニノが、2007 年に初演して話題となった『笑顔の砦』の関西バージョンのリクリエイションを行います。

●特徴 3：アジア圏のアーティスト

台湾のダンスカンパニーHORSE を主宰するウーカン・チェンとタイの古典舞踊とコンテンポラリーダンスを融合した作品で国際的に活躍するピチュ・クランチェンによる協働プロジェクト、韓国演劇界注目のアーティスト集団 Creative VaQi の新作のクリエイション、フィリピン・マニラを拠点とするパフォーマンス・カンパニーSipat Lawin Ensemble による観客参加型の長期プロジェクトといった、アジア圏で近年国際的に高い評価を得ているアーティスト、カンパニーの滞在制作を受け入れ、国際的なレジデンス施設としての役割を果たしていきます。

●特徴 4：地域文化と舞台芸術を結ぶプロジェクト

舞台映像作家の山田晋平らのグループは、1925 年の北但大震災以降に建設された豊岡市街の復興建築群等を活用したツアー・パフォーマンスを創作。作曲家の野村誠らによる日本相撲聞芸術作曲家協議会（JACSHA）は、滞在制作の一環として、国の選択無形民俗文化財に指定されている養父市の「ネットイ相撲」のリサーチを行います。豊岡市や但馬地域の文化資源を積極的にリサーチするプロジェクトをラインナップに加え、現代の舞台芸術と地域文化を緩やかに結びます。

以上、来年度の城崎国際アートセンターの事業へのご理解とご協力をお願いいたします。

平田オリザ
城崎国際アートセンター芸術監督